

エコニュース さって



第 91 号
令和 7 年 2 月 21 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

野鳥観察会に参加して

報告 : 坂本

令和 6 年 2 月 7 日 (水) 令和 5 年度第 3 回市民環境講座 (野鳥観察会) が、行われました。前回の開催は令和 2 年 2 月だったので、4 年ぶりの開催です。集合は北公民館、午前 9 時です。天気は快晴、雲一つなく、風もなく、正に春のような陽気でした。実は、5～6 日にかけて関東全域に積雪がありました。開催に先立ち、環境課から残雪と路面凍結があるので、転倒には注意してとの呼びかけがありました。



雪の残る外野橋上からの野鳥観察

てしまうからです。この望遠鏡から見る鳥は、手の届くところに見える。動く図鑑が、自分の目の前に広がる。これは感動します！

観た鳥は、ツグミ、イソシギ、タシギ、オオバン、マガモ、カルガモ、カワウ、カンムリカイツブリ、トビ、ハシビロガモなどでした。北公民館に戻り鳥合せリストで確認したところ 29 種類の野鳥を確認することができました。

参加者の感想を聞いたところ、次のような意見が寄せられた。「口ばしの長いイソシギ、先生の望遠鏡で見て感動した。」「イカルチドリ、足

講師は埼玉県生態系保護協会 青柳進氏です。参加者は一般の方 4 人、新聞記者 1 人、環境ネットの会員 5 人、環境課職員 2 人の計 12 人です。

見学コースは、北公民館からヤギのいる小屋を通り、中川の土手に出て、外野橋を通り、3 号公園に入り、高台から行幸湖を眺め、北上し、国道の行幸橋を渡り、再びヤギのいる小屋に戻りました。

鳥を見る方法は、先生がまず、双眼鏡で鳥を見つけ、そして先生の特別の望遠鏡 (高倍率) で見えるように先生がセットしてくれる。すぐに、参加者が望遠鏡をのぞく。すぐにのぞかなければ、鳥が動い



越冬のため日本に飛来したツグミ

が細くかわいかった。」「色々な種類のカモが、集団をなし仲良く共存をしている。すばらしいこと。」など。



のんびりとしたカワウたち

鳥の生活を間近に見ることができた。権現堂の自然の豊かさに改めて感動し、これからも権現堂の自然を大切にしたいと思いました。

今回の野鳥観察会に参加して、青い大空、美味しい空気、先生の望遠鏡により権現堂の沢山の野



楽しげに泳ぐカモの集団

幸手小学校出前講座

令和 6 年 5 月 17 日（金）幸手小学校にて 4 年生の 2 クラス 45 人を対象とした出前講座が行われました。時間は、午前 10 時 30 分から 12 時 10 分までです。学習のテーマは「身近な環境の生き物を調べよう」です。まず、ホウネンエビ班と植物班に別れ、最後に映像でおさらいの勉強をしました。

ホウネンエビ班

報告：小谷



泳ぐホウネンエビの観察

ホウネンエビ、カブトエビ、ミジンコそして卵を産み付けられたであろう乾燥した土を準備し、機器は双眼顕微鏡、ルーペ、ミルソー、シャーレ。「ホウネンエビの卵を探す場所」を 1 か所、「ホウネンエビ等を観察する場所」3 か所用意し、各々のテーブルに児童用イスを並べて私達は待ち受けていました。先生に連れられた児童の元気な声と共に入室があり、礼儀正しくし私達に挨拶があつて、私達も「内心喜ばしく思いながら」対応を致しました。

おさらいすると、知る人は知っており、知らない人はホウネンエビの存在すら知らない人がいるホウネンエビ。地域によっては絶滅危惧種とされているところがある田んぼの妖精ともいわれ 11 対の足を持ち、背面になって泳ぐ姿は可愛い。そして、またの名を「豊年蝦」とも呼ばれている。ホウネンエビの正体も不明なところもあるという。同じ甲殻類にあり、生きた化石と言われるカブトエビも 40 対以上の足を持ち、水田の底をはい回り稲の根に酸素を送り、根腐れを防ぎ、雑草の根を食べるので、農業の助けともなっている。

私のテーブルでは、説明の前にホウネンエビとカブトエビを指で触り、感触を感じてもらうことに努めました。児童達の感性と驚きの声を聞きながら、ホウネンエビのことやカブトエビ

のことを聞かれ、それに回答していきました。児童の関心の持ち方は一様ではなく、こちらでも楽しく勉強をさせて頂きました。児童達の明るい顔を見て、声を聞きながら私の頭の隅を過ぎる世の中と比較し、この子供達は、本当に国の大事な宝だと、そして私達大人の責任の重さも感じた時間を過ごさせて頂きました。

植物班

報告：藤城

まず、アカザの説明、“木の様に見えるけど草です”にビックリ。成長が早くて1年で1.5mから2mくらいまで大きくなるのをアカザの幼い草と見較べて実感。“軽くて丈夫で昔の人は杖にしていました。水戸黄門の杖もこれでした”と話すが、黄門様を知っていたのはほんの少しの児童のみだった。自分で持ったり、さわったり、杖をついてみたりと興味深々。身近な物を工夫して使っていた昔の人の知恵を感じてくれたかな。

次は、ヘビイチゴを顕微鏡で観察。ツンツンととんがった種やピカピカと光るところを見て、キャーキャーと興奮。今回はたくさん用意出来たので各自1個ずつ持ってヘビイチゴの種がポロポロ取れたり、割ると中が白かったり、つぶすと水が出たりするのを体験した。



ルーペで見る草花 美しさ発見！

“自分で見たい物”はタンポポの花と綿毛、ドクダミの花、セキショウなどで細かいところを熱心に顕微鏡で観察していた。

今回は顕微鏡のピント合わせが早く出来るようにと工夫した事が上手く行かなかった点があり、反省している。

今年の4年生には、見て、さわって実感してみる部分を多くしてみた。児童の皆さんが楽しんで学習しているのを見て、こちらも引き込まれて楽しんで学んだ2時間だった。

「中川探検ウォーク」に参加して

報告：久保田、坂本

6月22日（土）令和6年度第1回市民環境講座「中川探検ウォーク」が行われた。今回のテーマ「宇和田公園周辺の食べられる草、樹木」。講師は、自然保護ボランティアの山本裕隆氏。通常は、東公民館に集合し、約1.3kmを宇和田公園まで歩くのですが、参加者も高齢となり、往復を歩くのが辛くなってきたので、今回は現地集合となりました。当日の天気は暑くも寒くもなく、中川の自然を満喫するために、参加者11人（一般3人、市民環境ネット会員6人、環境課2人）は宇和田公園に集まりました。



歴史の話に盛り上がる皆さん

宇和田公園は「日本の公園の父」と呼ばれる本多静六博士が設計しました。桜、もみじ、かやなどの大木が涼しい木陰をつくり、春の桜、夏の涼し

い緑陰、秋のもみじの紅葉、冬には澄んだ空気で東の筑波山、西に富士山と見晴らしよく、一年を通して楽しめる場所です。

参加者は、車座になり、幸手にはいいところがあると話し合いました。そんな中から、権現堂堤はいつできたのか？ という声。幸手音頭には、「♪ハア〜エ 昔しゃお江戸を守った土堤（どて）も 今じゃ桜のネ〜、アレサ桜の花の山 ソレ」と歌う人が出てきた。江戸を守ったのだからきっと江戸時代にできたと言う人。いや権現堂堤は、それよりも前の 1576 年に築かれたよ。豊臣秀吉と徳川家康の連合軍が小田原城（後北条氏）を攻めたのが 1590 年なので、それよりも 14 年前に権現堂堤は築かれた。堤が築かれる以前は、今の権現堂川（行幸湖）には、渡良瀬川が流れており、権現堂からウェルス幸手、アスカル幸手、大島新田をとおり、今の杉戸を流れている古利根川が当時は利根川で、そこに繋がり江戸に流れていた、という話を披露する人。ウェルス幸手やアスカル幸手の付近をゆったりと流れる渡良瀬川を想像すると、歴史のロマンを感じます。



落下したヤマモモの実

話もソコソコにして、全員で近くを散策しました。ヤマモモの実が沢山落ちていました。ヤマモモは、「生のままかじる」「ジャムにする」「シロップ漬けにする」など色々利用できます。実の中に種があるので、種を持ち帰って自宅に植えようという参加者がいました。私は自宅で調べたところ、種から育て、実になるには 15 年から 20 年かかると分かったので、後日、種を拾った人に伝えたところ、「生きている間に実がたべられるかな？」と言っていました。



ヤマモモ；図鑑：岐阜聖徳
学園大学から引用

今回の中川探検ウォークは、幸手の歴史の勉強をしました。500 年前には、幸手に渡良瀬川が流れており、権現堂堤ができて、かつての渡良瀬川だったところが、農地となり、今はウェルス幸手やアスカル幸手が立っている。人は、住みやすさを求め、歳月をかけ、自然や環境を変えながら生きて来たのだと感心しました。爽やかな風に吹かれながら、かつての風景を思い浮かべながら、楽しい散策は終了しました。

【会員募集中！】 環境保全活動を一緒にやって いただく方を募集しております。

是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕

★問合わせ先；久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ： 幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく